

「キャリア・パスポート_(仮称)」を活用した指導 令和2年4月すべての小・中・高等学校において始まります

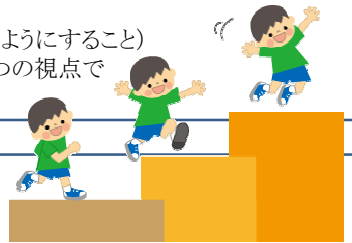
キャリア・パスポートは、高等学校までのキャリア教育に関わる活動についてのプロセスを記述し、振り返ることができるポートフォリオ的な教材です。自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりして自己評価を行うとともに、自己実現につながることを目的です。教師にとっても、キャリア・パスポートの記述を基に、成長を認めたり、系統的な指導につなげたりすることができます。

以下の留意点に配慮しながら効果的な活用に向けた準備をお願いします。

参照：「キャリア・パスポート」例示資料等について（平成31年3月29日付初等中等教育局児童生徒課（事務連絡））

「キャリア・パスポート」(例示資料)をカスタマイズする際の留意事項

- ・小学校入学から高等学校卒業までの記録を蓄積する前提の内容とすること
- ・シートはA4判(両面使用可)に統一し、各学年での蓄積は数ページ(5枚以内)とすること
- ・コメント欄を設ける等、担任や保護者が対話的に関わることができるものとすること
(家族や教師の負担に配慮しつつ、児童生徒の自己有用感の醸成や自己変容の自覚に結びつけられるようにすること)
- ・教科指導、教科外指導(行事・委員会・部活など)、学校外の活動(家庭、ボランティア、習い事など)の3つの視点で振り返り、今後の生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりすることのできる内容とすること



管理上の留意事項

- ・個人情報を含むことが想定されるため、原則として、管理は学校で行う
- ・学年間の引き継ぎは、原則、教師間で行い、校種間の引き継ぎは、原則、児童生徒を通じて行う
(小学校→中学校間においては要録の写しなどと同封も考えられる、令和2年度の中学3年生は進学先高校に各自持参)

効果的な活用に向けて

- ・学級活動(3)などで活用する場合は、記録の活動のみに留まらず、記録を用いて話し合い、意思決定を行うなどの学習過程を重視し、自分たちの努力や成長に対する気付きを深めるようにすること
- ・学校行事や学期の振り返りなどで活用する場合は、できた・できないだけの自己評価だけでなく、できるように努力したことや継続して頑張っていることも肯定的に捉えられるようにすること
- ・記録をそのまま学習評価としないこと

指導要録の作成について

小学校は令和2年度から、中学校は令和3年度から新様式での指導要録に変更になります。主な改善点について以下に掲載しますので、ご確認ください。

〈観点別学習状況の評価〉

「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点到整理されます

〈評定〉

観点別学習状況の評価を総括したものであることを示すために、観点別と同じ場所に位置付けられます

〈特別の教科 道徳〉

学習状況及び道徳性に係る成長の様子を、個人内評価として文章で端的に記述します

〈外国語活動(小学校)〉

観点毎に区分のあった記述欄が簡素化され、児童の学習状況に顕著な事項がある場合にその特徴を記入することになります

〈総合所見及び指導上参考となる諸事項〉

要点を簡条書きするなど、記載事項を必要最低限とします ※スペースを全て埋める必要はありません

〈障害のある児童生徒〉

個別の指導計画に共通する記載事項がある場合は写しを添付することで、指導要録(様式2-2)への記入に替えることも可能になります

各教科の学習の記録							特別の教科 道徳						
教科	観点	学年	1	2	3	4	5	6	学年	学習状況及び道徳性に係る成長の様子			
国語	知識・技能								1	観点	道徳		
	思考・判断・表現												
	主体的に学習に取り組む態度												
社会	知識・技能								2	評定			
	思考・判断・表現												
	主体的に学習に取り組む態度												
算数	知識・技能								3	外国語活動	外国語活動の記録		
	思考・判断・表現												
	主体的に学習に取り組む態度												
理科	知識・技能								4	総合的な学習の時間の記録	学年 学習活動 観点 評価		
	思考・判断・表現												
	主体的に学習に取り組む態度												
生活	知識・技能								5				
	思考・判断・表現												
	主体的に学習に取り組む態度												
総合	知識・技能								6				
	思考・判断・表現												
	主体的に学習に取り組む態度												

観点別学習状況の評価の進め方について

「指導に生かす評価」として学習状況を見取ることはこれまで通り毎時間行いますが、評価したことを記録に残すための「評価に用いる評価」は、目標の実現状況が顕著に見られる場面に精選します。評価は授業改善や学習改善など意味あるものにつなげ、評価を記録に残すために指導が疎かにならないようにします。詳しくは「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について(平成31年3月29日付初等中等教育局長通知)」をご覧ください。